



歌浦っ子だより (学校だより)

「やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成」

平成30年 9月 6日 文責:校長 内野義和

前期後半が始まりました

長い夏休みが終わり、子どもたちが登校してきました。7月までと違い、少しあいさつに元気がありませんでした。心配しましたが、冷房が効いた図書室で全校朝会を行ったときには、7月までの元気な子どもたちに戻っていました。学校に来るまでが少し元気がなかっただけで、教室で久しぶりに友達に会い、元気が戻ってきたようでした。

さて、全校朝会では次のような話をしました。

①夏休み前に校長先生からお願いしていたこと

- 全員が事故・けががゼロでした。よかったです。今後お願いします。
- 地域の行事に積極的に参加しましたか？これからも地域の行事があります。積極的に参加し、地域から一層かわいがられる子どもになりましょう。

②いのちの学習・平和の学習を365日

- 6月、8月だけでなく、これからも毎日、命を大切にすること、いじめを絶対にしないこと、思いやりをもつこと、戦争の事実を知ること、平和の大切さを学ぶことなどをしっかり行ってください。

③学校の目標の実行

- 「やさしい心」については、引き続き、「気持ちをこめて」あいさつ、「気持ちをこめて」返事、はっきりありがとう、はっきり後片付け、はっきり返事をしましょう。
- 「夢かがやく」については、引き続き、めあてや夢をしっかりとって努力していきましょう。

10分ほどの話でしたが、しっかりと聞くことができていました。6年生はこのあと、話の振り返りをしていました。大きくお話は3つ、それぞれ大事なことはこれという聞き方をすることが大切です。特に3年生以上は話の中心、話の要点をとらえる学習をしています。その実践です。学力向上はこの聞く力をつけることも重要になります。今後も続けていきます。

これからの時代を生きる1～危機管理について～

学校で言う「危機管理」とは、「人々の生命や心身等に危害をもたらす様々な危険が防止され、万が一、事件・事故が発生した場合には、被害を最小限にするために適切かつ迅速に対処すること」(文部科学省)です。まずは、危険の発生を未然に防止することが重要です。事件・事故が発生してから想定外だったという言い訳ではなく、あらゆる危険を想定し、未然防止に徹することが重要です。

しかし、この夏は想像もできないことが起きました。まずは、大阪での地震です。活断層があったとは言え、高槻周辺のこの30年での地震発生確率は1パーセント未満でした。これから地震はどこで起きても不思議ではないと言われています。

集中豪雨も同様です。今回は広島県が特に被害が大きかったのですが、今後はどこでも起きる可能性があると言われています。

台風については、5年生の理科の教科書に次のように書かれています。「台風は日本のはるか南の海の上で発生し、しだいに北のほうへ動くことが多い。」今年の台風はそうではありませんでした。「日本のはるか南の海の上」ではなく、沖縄周辺で発生し、2、3日で九州北部に来ました。ご存知のように学校も被害に遭いました。また、「北のほうへ動く」のではなく、東から西の方へ移動してきた台風もありました。

地震も集中豪雨も台風も今までの考えでは対応できません。固定観念にとらわれずに柔軟な考えで、どこでも起きるから、どう動くをするかわからないから、考えられる予防や対策をするということが重要になってきます。もちろん猛暑、熱中症予防対策も同様です。

今までこうだったからということで考えを変えないのではなく、この世の中は何が起こるかわからないので、その時々でしっかり考え、想像力を働かせ、ありとあらゆる可能性を考慮し、適切に対応していく力がこれからは必要となってくると思います。学校もそういう考えで、事件・事故の未然防止に一層力を入れていきます。

- *今回は、この夏の自然災害を受けて危機管理について書きました。今後も「これからの時代を生きる」というテーマで書いていきます。次回は、「これからの時代で必要とされる力」ということで書く予定です。